

表紙の話

(サブタイトルの話)

今号のサブタイトルは、「うずうずしませんか?」です。新学習指導要領や解説が発表され、数年後の学習内容が明らかになり、単に「わくわく」ではなく、何か自分の中に「うずうず」としてくる気持ちはないでしょうか。まだ見えぬものに対して、少し不安でありながら、新しい何かが始まるという期待です。自分を奮い起こして、その新しいものに取り組んでいく、そんな気持ちを表したタイトルを付けてみました。今回のインタビューの堀口氏もそんな気持ちで、ロマンチック数学ナイトをはじめとする次々と新しい企画を立ち上げてきていることがわかります。今回は投稿いただいた研究記事も多く、なかにはすぐにでも実践したい内容もあり、「うずうず」してくる方もいらっしゃるかもしれません。来年の関東甲信静数学教育研究千葉大会での発表にそんな気持ちを持っている方もいらっしゃることでしょう。新しいことに挑戦していくのは、誰しも少しの不安を感じています。しかし、それでもそれに取り組む価値や使命を見出して、取り組んでいくのでしょ。うずうず」する気持ちを大切にしていきたいですね。

tetranacci number

56

6th tetrahedral number

富士山を見れば、五月のつごもりに、雪としらふれり。
比叡の山

(第 55 号にちなんで)

さて「56」号です。そろそろネタ切れでは、と考えている方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。「56」はテトラナッチ数です。0,0,0,1 から始まる数列の事前の 4 項の和を次の項とするフィボナッチ数列の応用版の数列に登場する数なのです。なんとなくこじつけでは、と思われる方にもう一つ。「56」は左下の図にも見られるように 6 番目の四面体数でもあるのです。いずれも「テトラ」つながりです。四面体数では、面白い話があります。「伊勢物語 第九段 東下り」の一節に表紙の文があります。「富士山(3776m)の高さは、比叡山(848m)を 20 個重ねたほどある」と言っているのです。単純に考えるとおかしいと感じるかもしれません。しかし、在原業平(?)は、四面体数のような立体で捉えていたのです。そう考えると比叡山を 4 段(20 個)「積みあげれば」、ほぼ富士山の高さになることが納得できます。古典の先生とこの話をした時には、盛り上がりました。その他の表紙にある数式も 3 つの平方数の和になっているとか、今年の 8 月まで放映され、毎回数式で楽しませてくれた「仮面ライダービルド」に触発されて書いた数式など、「56」は意外にも非凡な数であることがわかります。